（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2793100054		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから新森公園		
所在地	大阪市旭区新森4丁目14-8		
自己評価作成日	平成22年3月	評価結果市町村受理日	平成22年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2793100054&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常磐町2-1-8　親和ビル4階
訪問調査日	平成22年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

少ない職員体制でありながら、業務中心の介護ではなく、寄り添う時間を作りコミュニケーションをとるように心がけている。　朝の体操の後には、職員も一緒に座りお茶の時間を共に過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりが毎日元気で過ごすために、体を動かすよう努めている。朝はみんなでラジオ体操をし、昼には嚥下体操をしたり、また、みんなでテーブルを囲んでゲームをしたり等、等。そして後は職員も一緒にくつろぎながら談笑し、常に寄り添いながら生活を共にしている。職員は明るく、利用者の表情も穏やかである。また、ホームの中、外をカメラでモニタリングできる設備があり、昼間は勿論、夜間の職員の少ないときでも利用者の動きを見落とすことがない。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作り各階に掲示している。毎日、申し送り時には唱和行い、職員全員で理念の取り組みを行っている。	「地域の中で共に生活している入居者様と職員が毎日笑顔で過ごせる環境作りを提供します」を理念とし各ユニットに掲示し、職員全員で共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい喫茶、夏祭り、催し物などに参加している。	事業所は自治会に加入し、地域の催しに参加し、毎月開かれるふれあい喫茶にも参加している。夏祭りや盆踊りにも参加し、地域住民と交流をしているが、十分溶け込んでいない。	地域環境があまり開かれていない土地柄でもあり、自治会活動も活発ではない。地域の中で共に生活することを考え、時間をかけてでも、融和を図ることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かせてはない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い家族からの意見、要望に応じながら改善している。	2ヶ月に1回開催している。自治会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族が出席し、ホームの現状や行事計画などの報告をし意見、提案を受けており、運営に生かしている。自治会長の出席が非常に少ない。	自治会長の毎回出席お願いと、欠席の際は、代わりの人の出席や、また民生委員、その他の地域の人たちにも呼びかけ、地域と密着した運営推進の会議を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故や感染など時には電話や直接出向き相談や連絡をしている。	必要に応じて電話で連絡を取り合っている。出向いて相談、連絡をすることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合は家族に説明行い同意のもと拘束する場合がある。玄関の施錠は防犯の意味も兼ねてしている。	職員はすべて研修などを通じて、禁止の対象となる具体的な行為は理解している。他の利用者に対する迷惑行為がある場合以外は、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修があれば参加し、拘束、虐待のない介護を目標にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの要望があれば活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要説明書をゆっくり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議や面会時に聞き方向性をかんがえている。	運営推進会議や家族の来訪時に気軽に話しあえる雰囲気を作り、意見、要望を聞いている。それらを職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1度設け意見、提案を1人ずつ出し合い話し合っている。	月1回開くミーティングを利用して職員の意見や要望を全員から聞くようにしている。交代勤務などでミーティングに参加できない職員には別に書面で提出して貰い、みんなで話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週、施設の状況報告を本部にそている。誕生日の職員にプレゼントをしたり、時には親睦会などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修の実施をし教育計画をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークなどの研修会に参加		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成前、本人より状況や気持ちを聞き入居後も話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族に現状、思いを聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時に一番今困っている事を聞き、他サービス利用についても説明するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係を築き努力している。介護ではなく生活の一部として一緒に家事などをし寄り添うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が主体である事を理解していただき、家族の気持ちを聞きながら勧めていっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、お友達などの来訪していただくようにしている。	地域の行事参加の機会や、友人の方がホームに来訪される時などに、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々生活の中でレクリエーションなどで職員が中に入り故郷が同じ等で対話していただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後入院中の方などのお見舞いに行ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向をつかむように努めケアプラン見直し、評価も合わせ意向確認し実施している。	入居の際に家族から本人の思いや意向を聞き、入居後は本人に寄り添い、生活を共にすることで意向を把握している。またケアプランの見直し時にも本人、家族と話し合い、確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、本人を取り巻く人より情報交換し、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人情報から本人への関わり方やケアを変更してりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議の実施、スタッフ、家族、看護師を含め意見を確認している。Drには往診時に報告している。	利用者がより良く暮らすために、残された能力を考慮し、職員で話し合いアイデアを出し、医師、看護師の意見も参考にし、家族とも話し合って、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケアプラン実施票に基づき記録している。職員会議や申し送りなどで情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院など必要に応じ施設から病院にいくなどしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどに来て頂き行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時などの受診は家族と相談しながら行い定期には往診で対応している。	殆どの利用者は事業所の協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、概ね週1回の往診を受けている。他科の受診が必要なときは家族と相談し、家族が付き添えない場合は、ホームで受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は看護師、介護士が行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には病院の医療連携相談員と蜜に連絡を取り合い退院のめどを聞くなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針の説明や家族意向、病状によっては医師に相談行いケアなどでは、職員と共有している。	明文化した“看取りの指針”の説明をし家族の同意を得て、医師・看護師・職員・本人・家族が方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修時などで救急救命訓練などは行っているが全員でまではいかない為、研修などの機会があれば率先できる努力はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施にて災害時の想定をしている。	年2回避難訓練を行っている。1回は消防署の指導を受けている。4月に行った訓練では、消防署立会いの下に、家族および地域住民も参加して行われたが、夜間の災害を考えると十分ではない。	夜間には2ユニットに職員が1人でいることから、体力の弱い利用者の避難には近隣住民の援助が不可欠である。そのための理解と協力が得られるような取り組みが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや言葉使いは日ごろ話し合いや注意しながらケアをおこなっている。また研修などで学んでいる。	新人研修で利用者の人格尊重、誇りやプライバシーを損ねない言動を指導し、職員はそれを身につけて日々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、排泄、入眠など個々に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には理美容に来ていただくなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、後片付けなどしながら食事を楽しむよう支援している。	食事は業者から納入された食材を担当者が調理している。職員はADLの低下した利用者の食事介助に手をとられながらも、食事を楽しむ雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事チェックを記録し把握し食事の少ない人には好物を食べて頂いたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや誘導をするなど個々にあった支援をしている。	排尿便の感覚が薄れている利用者には、チェック表を基に、概ね2時間ごとに、声かけ・誘導などで排泄支援をしている。おむつは、特別の場合を除き使用しないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	義歯のない方の食事や腸を動かす運動を行い、Drに相談しながら下剤の調節も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日の入浴可能にし、柔軟な対応に取り組んでいる。	週3日ぐらい、一人ひとりの希望にそった入浴支援をしている。曜日、時間帯は決めず、タイミングなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転やお昼寝など個々に合わせながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを作成し個々の服薬を理解しふらつきや傾眠などの副作用時にはDrと連絡に努め個々の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食、外出、行事などで気分転換が出来る工夫を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外泊や外出、行事なども含め行っている。	天気のよい日は、毎日戸外に出かけるよう支援している。散歩の他、地域での行事参加や、花見や外食なども行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解を踏まえ金銭を所持している方もいるが基本、金銭管理は家族が行っており、ホームでは管理できない為立替をするなどで買い物に行く支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方や希望に応じ自宅に電話をするなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を演出する手作りカレンダー、生花などを置くようにしている。	居間兼食堂は明るくゆったりとした広さでテレビがあり、ソファーでくつろげるよう設えられている。壁に大きなカレンダーや、行事の写真、額入りの絵が飾られていて生活感がある。トイレや、バスルームなど清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー等置き、くつろげる環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用していた物、写真、家具、布団など持参していただいている。	居室は各人好みの居心地よい部屋作りをしている。使い慣れた調度品を持ち込む人、あるいは、あまり物を置かず、すっきりとした部屋を楽しむ人、それなりに住みやすさが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の自立支援に向けプランを立てている。		